

長野県林業大学校のグレードアップに関する報告書【概要】

1 今日における森林・林業の現状と社会変化

(1) 社会変化と森林経営

- ・森林資源の持続可能かつ適正な利用・管理が重視される潮流

(2) 日本の政策の変化

- ・森林経営管理法の制定と森林環境税(仮称)の創設

(3) 県の施策の方向性

- ・収益性と創造性の高い農林業の推進や次代を担う人材確保に重点

2 長野県の森林・林業の現状と課題

- ・森林資源は着実に充実し利用期に(S45 比約 4 倍)
- ・人口減少時代が到来し就業者数減少(H4 比約 5 割減)
- ・労働災害の防止が継続的な課題
- ・山村地域では森林管理の空洞化が進行

3 林業大学校の現状と課題

- ・入学者は安定的に確保(志願倍率 10 年平均 1.80 倍)
- ・県外出身者の県内就業率 6 割超(過去 5 年平均)
- ・県職員等による講師体制
- ・施設等の老朽化(男子寮は早急に対応必要)

4 林業大学校におけるグレードアップの必要性

- ・近年の森林・林業情勢や、現場に必要な安全・職業倫理、異業種連携、地域づくりへの参画、男女共同参画、国際基準等の視点を反映した、体系的で実践重視のカリキュラムの再構築が必要
- ・既就業者を対象とした学び直しの場やキャリア開発の機会を提供できる仕組みが必要
- ・市町村の果たす役割の増大に対応可能な、地域の森林整備・管理等を担う人材の育成が必要

5 林業大学校が目指す姿

(1) 教育理念

- 本学は、信州の美しく豊かな山岳・森林資源を、良好に保続・発展させるための専門教育・研究拠点です
- 一 自然の営みと伝統文化を尊重し、森林を農山村社会における複合的価値として磨き上げる知識と技能・技術を身につけた人材を育成します
 - 一 林業が世代をつなぐ豊かな地域社会づくりに貢献できるよう、多様な研究を重ねます
 - 一 いつでも誰でも、森林・林業の「学び」を継続できる教育を展開します

(2) 教育目標

- ・森林の多様な価値を創造することで地域課題の解決に寄与できる人材
- ・科学と安全性を重視し、高い倫理観を持って組織と社会に貢献する人材
- ・変化の激しい時代を生き抜く林業専門職としての社会的資質を備えた人材

(3) 教育の柱

- ・生態的・経済的・社会文化的側面に配慮した持続可能な農山村社会の構築を目指す力の養成
- ・科学と技術に裏付けされた実践と対話を重視する双方向教育
- ・危険を回避できる適切な判断力と安全管理及び職業倫理の醸成
- ・組織や実社会で自律的に振る舞うことができるための全人教育
- ・急速に変化する社会・技術に適応する専門職のための教育

(4) 実現するための必要事項

① 教育内容・方法

- ・理論と実践に基づく「実学」教育
- ・アクティブ・ラーニングによる主体的な学び
- ・体系的・実践的な安全管理の意識、技術等の習得

② 学校体制・運営

- ・優秀な教職員の確保、実務家教員の活用
- ・学校の核となる人材の常駐体制
- ・学長がリーダーシップを発揮できる運営体制
- ・3 年制の専門職短期大学への移行

(5) 地域連携・社会連携

① 産学官関連機関との連携

- ・それぞれが強みを活かす「オール長野」体制で取組を推進
- ・業界と連携した実習・インターンシップ

② 国際連携

- ・国際交流の促進及び国際基準の教育の提供

③ 地域社会・林業界への貢献

- ・集積された知識を活用したシンクタンク機能の発揮
- ・学び直しの場(継続教育)等の提供
- ・フォレストバレーの中核機関として、日本(アジア)に貢献

6 重要かつ早急に取り組むべき項目

- ・カリキュラム・組織体制の検討：カリキュラムの見直し、学校・学年・クラス定員及び新たな選択コース制等の検討
組織体制の検討、専任教員確保に向けた方針策定・候補者選定 など
- ・外部関連団体等との連携体制の検討：産学官によるインターンシップや就業に関わる連携・協力体制の構築 など
- ・施設・設備の整備：新体制に向けて必要な施設・設備の検討・確保(特に男子寮の耐震化に向けた対応) など
- ・新体制への移行に向けた試み：教育プログラム開発着手などの順次実施、全国の林業教育関係者との協力推進 など